



第2章 図上訓練の実施結果

第 1 本部運営訓練

1 主 眼

- (1) 緊急消防援助隊の応援要請及び受入準備の手順の確認
- (2) 消防応援活動調整本部、指揮本部及び指揮支援本部の調整能力の向上
- (3) 自衛隊、海上保安庁、警察等との活動調整

2 災害対策本部運営訓練

(1) 日 時

令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 8 時 45 分から午後 3 時 00 分まで

(2) 会 場

静岡県危機管理センター

(3) 参加者

- ア 静岡県危機管理部（指令部対策グループ及び情報グループほか）
- イ 陸上自衛隊（第 1 師団司令部・第 34 普通科連隊）
- ウ 海上自衛隊（横須賀地方総監部）
- エ 航空自衛隊（中部航空方面隊司令部）
- オ 海上保安庁（清水海上保安部）
- カ 静岡県警察本部
- キ 順天堂大学医学部附属静岡病院（ドクターヘリ）

(4) 訓練内容

- ア 被害状況の把握のため、静岡県消防防災航空隊に対して上空偵察の指示
- イ 各市町の災害状況等を把握し、それらを反映した地図の作成
- ウ 道路等の被害状況、通行可能な路線及び区間を把握し、関係機関と共有
- エ 各市町からの支援要請を受付後、各関係機関と事案対応の調整
- オ 航空機の必要な事案を集約し、各関係機関と調整のうえ事案対応
- カ 各関係機関との活動調整会議を開催し被害・対応状況の共有

3 緊急消防援助隊応援要請訓練

(1) 日 時

令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 8 時 45 分から午後 3 時 00 分まで

(2) 会 場

- ア 静岡県危機管理センター
- イ 被災地消防本部

- (ア) 下田消防本部
- (イ) 駿東伊豆消防本部すんとう
- (ウ) 熱海市消防本部
- (エ) 富士山南東消防本部
- (オ) 御殿場市・小山町おやま広域行政組合消防本部
- (カ) 富士市消防本部
- (キ) 富士宮市消防本部

(3) 参加者

- ア 静岡県危機管理部（消防調整スタッフ）
- イ 被災地消防本部
 - (ア) 下田消防本部
 - (イ) 駿東伊豆消防本部すんとう
 - (ウ) 熱海市消防本部
 - (エ) 富士山南東消防本部
 - (オ) 御殿場市・小山町おやま広域行政組合消防本部
 - (カ) 富士市消防本部
 - (キ) 富士宮市消防本部

(4) 訓練内容

- ア 被災地消防本部は、各々の受援計画に基づき、被害状況の把握及び消防力の優劣を判断し、必要に応じて代表消防本部に相談、静岡県知事（消防保安課）へ緊急消防援助隊の要請のための連絡を行った。
- イ 静岡県知事は、必要な隊の規模及び種別を把握した上で、総務省消防庁に対して緊急消防援助隊の要請を行った。

4 消防応援活動調整本部設置・運営訓練

(1) 日時

令和6年7月25日（木）午前8時45分から午後3時00分まで

(2) 会場

静岡県危機管理センター

(3) 参加者

- ア 静岡県危機管理部（消防調整スタッフ）
- イ 静岡県消防防災航空隊
- ウ 統括指揮支援隊（横浜市消防局）
- エ 代表消防本部（静岡市消防局）
- オ 被災地消防本部

- (7) 下田消防本部
- (イ) 駿東伊豆消防本部すんとう
- (ウ) 熱海市消防本部
- (エ) 富士山南東消防本部
- (オ) 御殿場市・小山町おやま広域行政組合消防本部
- (カ) 富士市消防本部
- (キ) 富士宮市消防本部
- カ 総務省消防庁

(4) 訓練内容

- ア 県内の被害状況を集約及び把握し対応の検討
- イ 応援等決定通知を関係機関に対して共有
- ウ 緊急消防援助隊の応援等決定通知により、消防応援活動調整本部の設置
- エ 総務省消防庁に対して消防応援活動調整本部等の設置の報告
- オ 消防応援活動調整本部への被災地消防本部職員及び消防庁リエゾンの受入
- カ 緊急消防援助隊の受入準備
- キ 統括指揮支援隊へ被害・対応状況の共有及び緊急消防援助隊の活動調整

5 指揮本部、指揮支援本部設置・運営訓練

(1) 日 時

令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 8 時 45 分から午後 3 時 00 分まで

(2) 会 場

- ア 下田消防本部
- イ 駿東伊豆消防本部すんとう
- ウ 熱海市消防本部
- エ 富士山南東消防本部
- オ 御殿場市・小山町おやま広域行政組合消防本部
- カ 富士市消防本部
- キ 富士宮市消防本部

(3) 参加者

- ア 指揮支援部隊
 - (7) 静岡市消防局
 - (イ) 相模原市消防局
 - (ウ) 東京消防庁
 - (エ) 浜松市消防局（2 隊）
 - (オ) 名古屋市消防局
 - (カ) 川崎市消防局

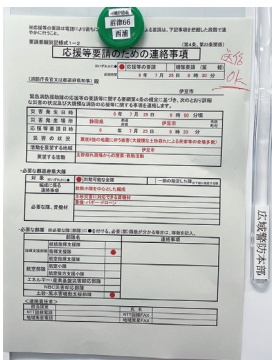
イ 被災地消防本部

- (ア) 下田消防本部
- (イ) 駿東伊豆消防本部^{すんとう}
- (ウ) 熱海市消防本部
- (エ) 富士山南東消防本部
- (オ) 御殿場市・小山町広域行政組合消防本部^{おやま}
- (カ) 富士市消防本部
- (キ) 富士宮市消防本部

(4) 訓練内容

- ア 管轄内の被害状況を集約及び把握し対応の検討
- イ 災害即報の通知
- ウ 緊急消防援助隊の応援等決定通知により指揮本部の設置
- エ 緊急消防援助隊の応援等決定通知を関係市町へ共有
- オ 消防応援活動調整本部に対して指揮本部、指揮支援本部設置の報告
- カ 消防応援活動調整本部へ職員の派遣
- キ 緊急消防援助隊の受入準備
- ク 指揮支援隊は、被災地指揮本部へ到着後、指揮支援部隊長の指示により指揮支援本部の設置
- ケ 指揮本部は、指揮支援隊へ被害・対応状況の共有
- コ 活動調整会議で決定した各機関の活動範囲を踏まえ、消防本部、静岡県内消防応援隊、緊急消防援助隊の部隊配置

(5) 実施状況

訓練開始前ブリーフィング（全体） 	訓練開始前ブリーフィング（下田消防本部） 
地震発生（静岡県危機管理センター） 	地震発生（富士山南東消防本部） 
情報収集（御殿場市・小山町広域行政組合消防本部） 	情報収集（静岡県危機管理センター） 
緊急消防援助隊の要請（駿東伊豆消防本部） 	消防応援活動調整本部設置（静岡県危機管理センター） 

クロノロジーの作成（熱海市消防本部）	車両動態管理システム（富士市消防本部）
	
被災地消防本部の職員との情報共有 （静岡県危機管理センター）	統括指揮支援隊との情報共有 （静岡県危機管理センター）
	
指揮支援隊との情報共有（駿東伊豆消防本部）	指揮支援隊との情報共有（富士市消防本部）
	
活動調整会議（静岡県危機管理センター）	消防部隊の配置検討（富士宮市消防本部）
	

第 2 航空指揮本部等運営訓練

1 主 眼

航空指揮本部及び航空指揮支援本部の調整能力、受援力の強化を図る。

2 航空指揮本部、航空指揮支援本部設置・運営訓練

(1) 日 時

令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 8 時 45 分から午後 3 時 00 分まで

(2) 会 場

富士山静岡空港

(3) 参加者

ア 静岡県消防防災航空隊

イ 静岡県危機管理部（空港現地運用班）

ウ 航空指揮支援隊（群馬県防災航空隊）

(4) 訓練内容

ア 静岡県消防防災航空隊は、「静岡県緊急消防援助隊航空部隊及び航空指揮支援隊受援計画」の「活動拠点ヘリベース開設要領」に基づきヘリベースを開設し、ヘリベース内に航空指揮本部を設置して、消防応援活動調整本部へ報告

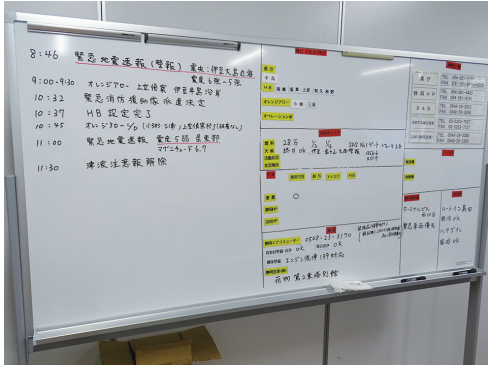
イ 航空指揮本部は、航空指揮支援隊に対して被害・対応状況の共有

ウ 航空指揮支援隊は、消防応援活動調整本部に対して航空指揮支援本部設置の連絡

エ 航空指揮本部は、ヘリコプターの駐機場所の確保、ヘリコプターの運航調整及び航空小隊への任務付与

オ 空港現地運用班は、災害対策本部に対してヘリベースにおける航空小隊の任務対応状況の報告

(5) 実施状況

実機にて富士山静岡空港（ヘリベース）へ進出	航空指揮本部設置状況
	
クロノロジーの作成	事案対応の指示
	
事案管理一覧表による管理	空港現地運用班による任務対応状況の報告
	
航空指揮支援隊への情報共有	
	

第 3 情報収集・情報伝達訓練

1 主 眼

- (1) 緊急消防援助隊動態情報システム（以下「DJS」という。）を有効に活用し、消防応援活動調整本部、指揮本部、指揮支援本部及び緊急消防援助隊等が相互に情報共有を行う。
- (2) WEB 会議システムにより消防応援活動調整本部、指揮本部、指揮支援本部、航空指揮本部、航空指揮支援本部間で情報共有し、デジタル技術の活用可能な場面について検証を行う。

2 動態情報システム（DJS）運用訓練

(1) 日 時

令和 6 年 7 月 25 日（木）午前 8 時 45 分から午後 3 時 00 分まで

(2) 会 場

ア 静岡県危機管理センター

イ 被災地消防本部

(ア) 下田消防本部

(イ) ^{すんとう}駿東伊豆消防本部

(ウ) 熱海市消防本部

(エ) 富士山南東消防本部

(オ) 御殿場市・^{おやま}小山町広域行政組合消防本部

(カ) 富士市消防本部

(キ) 富士宮市消防本部

(3) 参加者

ア 消防応援活動調整本部

イ 被災地消防本部

(ア) 下田消防本部

(イ) ^{すんとう}駿東伊豆消防本部

(ウ) 熱海市消防本部

(エ) 富士山南東消防本部

(オ) 御殿場市・^{おやま}小山町広域行政組合消防本部

(カ) 富士市消防本部

(キ) 富士宮市消防本部

ウ 指揮支援部隊

(ア) 横浜市消防局

(イ) 静岡市消防局

(ウ) 相模原市消防局

(エ) 東京消防庁

(オ) 浜松市消防局

(カ) 名古屋市消防局

- (キ) 川崎市消防局
- エ 総務省消防庁

(4) 訓練内容

指揮本部、指揮支援本部及び消防応援活動調整本部は、DJSを活用し、災害状況、指揮支援部隊の進出状況、進出拠点、宿营地及び道路通行状況等の情報共有を実施した。

3 WEB 会議システム活用訓練

(1) 日 時

令和6年7月25日（木）午前8時45分から午後3時00分まで

(2) 会 場

- ア 静岡県危機管理センター
- イ 被災地消防本部
 - (ア) 下田消防本部
 - (イ) 駿東伊豆消防本部
 - (ウ) 熱海市消防本部
 - (エ) 富士山南東消防本部
 - (オ) 御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
 - (カ) 富士市消防本部
 - (キ) 富士宮市消防本部
- ウ 富士山静岡空港

(3) 参加者

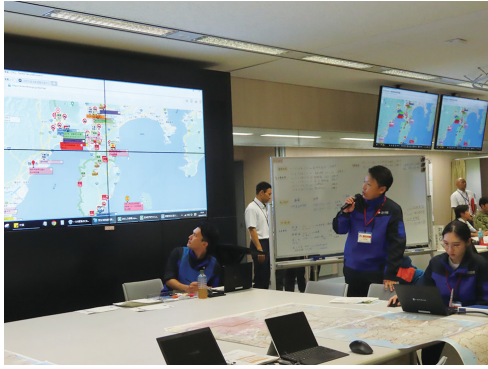
- ア 消防応援活動調整本部
- イ 被災地消防本部
 - (ア) 下田消防本部
 - (イ) 駿東伊豆消防本部
 - (ウ) 熱海市消防本部
 - (エ) 富士山南東消防本部
 - (オ) 御殿場市・小山町広域行政組合消防本部
 - (カ) 富士市消防本部
 - (キ) 富士宮市消防本部
- ウ 航空指揮本部

(4) 訓練内容

指揮本部、消防応援活動調整本部及び航空指揮本部間において情報共有をする際に、電話やメールの補助的なツールとしてWEB会議システムを活用した。

また、各機関に対して同時に情報共有できるメリットを生かした運用を実施した。

(5) 実施状況

DJS を活用した情報共有 (富士宮市消防本部)	WEB 会議システムを活用した情報共有 (熱海市消防本部)
	
DJS にて集約した情報の共有 (静岡県危機管理センター)	WEB 会議システムを活用した情報共有 (富士山静岡空港)
	
DJS を活用した指揮支援隊への情報共有 (御殿場市・おやま 小山町広域行政組合消防本部)	WEB 会議システムを活用した指揮支援部隊の情報共有 (静岡県危機管理センター)
	

第4 図上訓練から得られた課題、目標及び成果

関東ブロック合同訓練は、実動訓練と図上訓練を切り離し、実動訓練の約4か月前に図上訓練を実施した。別日に実施したことで、実災害に即した図上訓練を実施し、実効性の高い訓練を実施することができた。

各会場において、訓練者による自己評価及び評価者による客観評価を踏まえて、各所属ごとに目標設定を行った。目標の設定後、各所属ごと目標達成に向けて取り組み、令和6年12月中におおむね達成した。目標の達成により、資料の作成、指揮本部のレイアウトの変更及び受援計画の改正等を行い、各所属の消防力の強化につなげることができた。

訓練会場：【静岡県危機管理センター】

●訓練者：静岡県危機管理部消防保安課（消防応援活動調整本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	DJSを活用することで、様々な情報が見える化することができ、情報の共有を図ることができた。
		ヒアリングシートを活用した情報収集を行うことができた。
	客観評価	発災後、迅速に情報収集を行い、緊急消防援助隊の応援要請を行うことができた。
		WEB会議システムを活用して、常時各本部と情報共有し、迅速な対応をとることができた。
悪かった点	自己評価	DJSの情報入力等に時間を要してしまった。
		今回の訓練では、消防からの電話対応、WEBへの対応等、何とか対応できたが、実災害時は、消防調整スタッフは6人しかおらず、かつ他部局の職員が含まれるため増員が必要であると感じた。
	客観評価	県災害対策本部において、被害情報等の流れが多数混在し、情報の一元化がされていなかった。
		DJSを活用し災害情報の共有をしていたが、情報が表面的であり、詳細な情報を把握できていなかった。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	DJSマニュアルの作成及び操作訓練の実施を行う。
	達成状況	令和6年11月8日に静岡県緊急消防援助隊受援計画に「DOIシステム」について明記し正式運用を開始した。 ※「DOIシステム」とは・・・D(DJS) O(オンライン会議) I(information)の頭文字からなる造語県独自のDJS入力マニュアルを策定するとともに、映像共有システムでDJSの補完を行う情報収集体制及びオンライン会議システムによる情報発信を複合的に運用する体制をいう。
	目 標	ライフラインスタッフである消防保安課職員を、緊急消防援助隊要請段階においては、消防調整スタッフに応援できる体制の構築をする。
	達成状況	消防応援活動調整本部では、消防保安課長が本部員として指定されている。このため、消防保安課長の指示により、消防保安課員(消防行政班及び産業保安班)が本部員として対応する。

●訓練者：横浜市消防局（消防応援活動調整本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	被災地消防本部からのリエゾンに対し、確認事項を明確にしたため、効果的に確認が行えた。
		各隊員の役割を事前に分担していたため、効率良く情報収集できた。
	客観評価	到着後、速やかに人員配置を行い、静岡県担当職員や各消防本部リエゾンから情報収集活動を行っていた。
		活動調整会議で決定した内容を「WEB会議システム」を活用し、各消防本部に対して情報共有を行っていた。
悪かった点	自己評価	県庁をはじめ、他機関との連携が不足していた。
		入手した情報をさらに深掘りする必要があると感じた。また、情報の整理（ホワイトボード等への記載）は、被災地消防本部のリエゾンに依頼しても良かった。さらに、ホワイトボード等は、調整本部で活動する職員等が視認できる位置に置く必要がある。
	客観評価	「どこで（場所）」、「発生した災害種別」、「要救助者の情報」や「どのような活動」を行っているか、「使用可能な道路等の情報」等の説明を受けていたが、全体を把握する情報が不足しているのを感じていた。
		他機関がどこで、何隊、何人、どこで活動しているなどの情報が可視化できておらず消防機関と他機関の連携は皆無であった。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	緊急消防援助隊派遣予定職員への教育
	達成状況	実施中 当局では、緊急消防援助隊派遣予定職員及び訓練参加職員に対し、緊急消防援助隊の制度、派遣時の実施事項に関する教育を実施しました。実動訓練本番は、教育内容を踏まえた対応を行い、効率的な活動を実施することができました。
	目 標	被災地での実施事項のリスト化
	達成状況	実施中 当局では、緊急消防援助隊派遣予定職員及び訓練参加職員に対し、緊急消防援助隊の制度、派遣時の実施事項に関する教育を実施しました。実動訓練本番は、教育内容を踏まえた対応を行い、効率的な活動を実施しました。今後、実施事項のリスト化する内容の検討を継続して行っていきます。

訓練会場：【下田消防本部】

●訓練者：下田消防本部（受援指揮本部）

項目		意見
良かった点	自己評価	災害対策本部（指揮本部）のレイアウトを変更し図上訓練を実施したことにより、受援活動をスムーズに行うことができた。
		オンラインストレージ（Googleドライブ）を使用し災害事案の情報共有ができた。
	客観評価	本部長が、適時集合させ全本部員に情報共有を図っていたこと。
		部隊のコントロールができていたこと。
悪かった点	自己評価	災害事案以外の情報把握が疎かであった。時系列、決定事項を含め、オンラインストレージに入力し情報共有を図りたい。
		通信指令室（仮想）を設定し、災害事案聴取の訓練を行ったが、災害対策本部での事案処理に対して必要な内容が不足していた。また、不必要な内容が記載されていた。災害モードに切り替わる時、通信指令室の聴取方法を確立すべきである。
	客観評価	災害情報記録表一覧の記載ミス、重複が見られた。
		指揮本部を運営するうえで、被害状況の正確な把握、緊急消防援助隊の応援要請の判断等、全ての基本となることから、正確かつ迅速に作成するための流れを検証し構築することが必要だと感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目標	オンラインストレージの記載方法を変更し、運用方法の更なる構築を行う。
	達成状況	令和6年12月16日に本部運営訓練を行う。本部運営訓練で実際に使用し検証後、完成とする。
	目標	119番通報（災害モード）の聴取が円滑に行われるようにするため、災害情報記録票を見直す。
	達成状況	令和6年12月16日に本部運営訓練を行う。本部運営訓練で実際に使用し検証後、完成とする。
	目標	受援計画を見直し修正を行う。
	達成状況	・受援計画を令和6年12月1日付けで変更した。 ・令和6年5月20日「大規模災害時における宿泊施設の提供に関する協定」を下田温泉旅館協同組合と締結した。この宿泊施設を別紙とし追加した。 ・津波避難行動時の災害対策本部の開設場所を変更した。

●訓練者：静岡市消防局（指揮支援本部）

項目		意見
良かった点	自己評価	指揮支援隊の活動にあたり、必要かつ的確な情報を得ることができた。
	客観評価	指揮支援隊長が、適時集合させ各隊員に情報共有を図っていた。
悪かった点	自己評価	消防応援活動調整本部からの情報や指示が得られなかった。
	客観評価	なし
上記を踏まえた目標及び達成状況	目標	動態情報システム（DJS）等の機器取扱い訓練を複数回実施し隊員全員が習熟する。
	達成状況	毎年度、4月に警防課から指定隊員に対しDJSの取扱い訓練を実施し、加えてDJSを1、2週間程度指定隊員の属する消防署に貸し出しし取扱いの習熟を高めている。その他、指揮支援隊、県大隊指揮隊、統合機動部隊指揮隊及びエネルギー・産業基盤災害即応部隊指揮隊は、関東ブロック合同訓練及び中部ブロック合同訓練前に10日間程度集中的にDJSの取扱い訓練を実施している。
	目標	派遣職員との情報のやり取りや報告等のマニュアルを作成し周知徹底する。
	達成状況	災害対策本部等へ派遣される警防本部要員を中心に静岡県が開催する総合防災訓練（8月）やオペレーション訓練に参加させ、消防応援活動調整本部や方面調整本部（中部地域局）との連携を実施。関東ブロック合同訓練では、派遣想定がなかったことから、マニュアルについては、各派遣先の役割を明確にし静岡県等と検証した上で検討する。

訓練会場：【駿東伊豆消防本部】

●訓練者：駿東伊豆消防本部（指揮本部）

項目		意見
良かった点	自己評価	受援計画どおりの対応ができていた。
		警防本部運営に携わる職員は、途中から応援に入る指揮支援隊に考慮し、情報を見やすく整理できていた。
	客観評価	警防本部中央に災害地プロット地図が配置され、マグネット等を活用し見える化されていた。
		指揮支援隊との情報共有については、チェックリスト等を活用し適切に行うことができた。
悪かった点	自己評価	緊急消防援助隊の応援決定後、指揮本部運用要員を進出拠点等に派遣するため、少人数で運用できるよう効率化を研究していく必要がある。
		WEB会議システム（Zoom）を使用していた際に、音量調整の不備により情報漏れが生じた。
		警防本部内における情報共有が不足していた。
	客観評価	緊急消防援助隊の要請など重要な転機については、警防本部内でより強くアナウンスすべきと感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目標	情報の収集、整理及び伝達など、自所属の受援計画を確認し、潜在する課題の洗い出しを行い精度上げる。
	達成状況	図上訓練の諸課題の洗い出しは出来ており、実動訓練での課題と併せて改定する。
	目標	全体周知の方法を研究し、情報の共有を図る。
	達成状況	全体周知の際は拡声器を使用し、「重要な転機」は全体に遺漏なく周知させることとした。

●訓練者：相模原市消防局（指揮支援本部）

項目		意見
良かった点	自己評価	会場については、指揮本部と指揮支援本部が近いため、情報の共有や調整が容易であった。また、その他の会場レイアウト及び設備も充実しており、情報フローが確立されていたことから、到着後の指揮支援本部の設置がスムーズで、その後の被害・対応状況の共有も理解しやすく、必要な情報の共有ができた。
	客観評価	指揮支援隊長と副隊長が指揮本部員から駿東伊豆消防本部の管内概要や災害状況、静岡県内消防応援隊の活動見込み、インパクト災害等の状況報告を受け、それを指揮支援隊長が各隊員に情報共有が行われた。
		統括指揮支援隊の進出予定を受け指揮支援隊内に情報共有が行われ、現場活動を仕切る大隊長の指名について、検討が行われたことは活動隊としてはやりやすいため、良いことだと思った。
悪かった点	自己評価	DJSの取り扱いは、特定の職員が事前訓練し対応したが、その他の職員も訓練する必要性を感じた。
	客観評価	災害情報や、それぞれ異なる市町内で活動している管轄隊や消防団等の動態について、指揮本部員からもっと聞き出せば良いかと感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目標	DJSを使用した訓練
	達成状況	「緊急消防援助隊の応援に関する情報伝達訓練」に合わせ、指揮支援隊員に対し、DJS取扱い訓練を実施した。
	目標	DJS取扱い訓練
	達成状況	関東ブロック合同訓練（実動訓練）前に、指揮支援隊員によるミーティング、DJS取扱い訓練を複数の職員が取扱えるよう考慮し実施した。

訓練会場：【熱海市消防本部】

●訓練者：熱海市消防本部（指揮本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	大規模災害用の聴取シートを活用し、指揮本部に対して、円滑に情報伝達を行うことができた。
		事前に決められていた役割にとらわれず、各班の業務量から判断し、臨機応変に対応することができた。
	客観評価	土砂災害事案において、消防研究センターに安全管理を依頼するなど、隊員の安全に対しても配慮した指揮がされていた。
		夜間の災害活動の実施の有無について、指揮本部と指揮支援本部がしっかりと協議をしていた。
悪かった点	自己評価	市災害対策本部、指揮本部など情報ルートが多く、情報が錯綜し確認に時間をとられた。
		県消防応援活動調整本部へ派遣するリエゾンの交通手段の確認をすることができなかった。また、リエゾンの携行品に対しても不足があり見直しが必要である。
	客観評価	指揮本部において、現場指揮所と指令室の無線交信を開けるよう無線を設置していたが、聞き逃し等も考えられるため、定期的に指揮者に対して報告を行うと良いと思う。
		市災害対策本部会議の結果や統括指揮支援隊の活動方針など、指揮本部員全体へ周知がされていなかった。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	情報共有シート、災害聴取シートの作成
	達成状況	本訓練用に試行した各種情報シートの内容について、各担当者と再度見直して『大規模災害聴取シート』『無線メモ』『情報共有シート』の3種類シートを作成しました。今後もあらゆる災害を想定した訓練や情報ルート等についても検証を重ね、改善点等は都度改良して、より使いやすいシートを作成したいと思います。
	目 標	訓練で使用する連絡系統図に役割分担入れ込むなど、情報ルート（役割）を明確にする。
	達成状況	本訓練で想定したレイアウトをもとに、大規模災害時における指揮本部運営に伴う情報ルート及び執務室の配置について、現在各部署と調整しています。災害発生直後の混乱期にも、誰が、どこで、何をすべきか、明確にし短時間で重要情報を整理し、速やかに応援の有無等を判断出来るような体制を整えたいと思います。

●訓練者：東京消防庁（指揮支援本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	熱海市消防本部到着後、熱海市消防本部との災害等の情報共有を行い、緊急消防援助隊の進出拠点及び活動拠点への決定、統括指揮支援隊との情報連絡、災害状況に応じた部隊配置など、指揮支援隊としての初動の活動目的を達成することができた。
		緊急消防援助隊の進出拠点が二度変更となる場面もあったが、熱海市消防本部との調整により柔軟かつ確実な対応ができた。
	客観評価	夜間の災害活動について、実施の有無を指揮本部と指揮支援隊の協議がきちんとされていた。
		指揮支援隊長が不在の間の時間を無駄にしないため、市災害対策会議に参加する前に、不在の間に実施することや確認しておくことを指揮支援隊長が隊員に指示ができていた。
悪かった点	自己評価	指揮支援隊員と熱海市消防本部員との役割分担等（誰が何を担当している）を早い段階から共有できなかったため、情報の集約・共有に戸惑う場面があった。
		各県大隊の進出拠点の到着が15時頃であり、活動開始は17時過ぎになると見込まれた。夜間活動となることから、警察、自衛隊を含む活動時間の設定、活動隊員の交替を含めた検討を早期に実施しておくべきであった。
	客観評価	なし
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	指揮支援隊活動チェックリストの作成
	達成状況	指揮支援隊活動チェックリストの作成中 来年度緊急消防援助隊に創設される新たな部隊の運用を含め、東京消防庁緊急消防応援に係る各種規程、要綱及び計画の改正を行っており、特に計画に付随する消防応援活動マニュアルに資料を入れ込む予定です。そのなかで、図上訓練で課題とした指揮支援隊の活動表など具体的なもの作成し職員へ周知させる予定です。

訓練会場：【富士山南東消防本部】

●訓練者：富士山南東消防本部（指揮本部）

項目		意見
良かった点	自己評価	進出拠点及び宿営地の選定について、応援隊の規模感を考慮し、臨機応変に対応することができた。
		指揮本部業務分担表を理解したうえで、訓練に臨んだため、役割分担どおりに行動することができた。
	客観評価	緊急消防援助隊の要請や、応援後の受援に伴う進出拠点及び宿営地等の確認を的確に行うことができた。
		必要に応じて、班長を集めて調整会議を開催し、情報共有を行い、全体に対しての周知ができていた。
悪かった点	自己評価	指揮支援隊に提供する資料作りに時間を費やしてしまった。
		情報の見える化をするなど、ホワイトボードの活用をすることができなかった。
	客観評価	各班が収集した情報の集約が上手くいっていなかった。
		指揮支援隊に対して共有する情報が少なく、指揮支援隊からの問いに対して回答できない事項があった。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目標	指揮本部の効率的な情報集約が出来るように配置を変更する。それに伴い、ホワイトボードの記入項目の見直しと、指揮支援隊への情報提供リストの作成を行う。
	達成状況	図上訓練終了後、指揮本部運営に関する見直しをすべく、担当で集まり意見交換を実施しました。各班任務分担の細分化、それに伴う人員の配置等について、現在、部内において協議中です。 また、指揮支援隊への情報提供リストは作成中で、ホワイトボードについては、明らかに不足していたため、令和7年度当初予算にて購入し、見える化、効果的な情報集約及び提供ができるよう、記載方法の統一化を図ります。 現時点で満足のいく達成状況ではありませんが、今後も、掲げた目標を達成すべく、継続して見直しを実施していきます。

●訓練者：浜松市消防局（指揮支援本部）

項目		意見
良かった点	自己評価	共有部分は、地図を中央に本部長、副本部長等と指揮支援本部長、副隊長等が同席のため双方の情報を同時に共有できた。
		指揮本部と指揮支援本部のスペースが共有する部分としない部分が分かれており、活動がスムーズであった。
	客観評価	被災地消防本部との情報共有においては、一方的になることなく必要な情報を上手に聞き出せていた。
		DJSを活用できていた。
悪かった点	自己評価	指揮支援本部用のホワイトボードに緊急消防援助隊に関する内容が記載できず、見える化が図れなかった。
	客観評価	なし
上記を踏まえた目標及び達成状況	目標	到着時の情報収集リストを作成
	達成状況	作成済み

訓練会場：【御殿場市・小山町広域行政組合消防本部】

●訓練者：御殿場市・小山町広域行政組合消防本部（指揮本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	共通地図盤やホワイトボードを活用し、見える化を行うことにより、共通認識を持ち情報の収集等が行われていた。
		指揮支援隊の活動に必要な環境が整っており、コミュニケーションが促進されるように工夫できていた。
	客観評価	常にDJSを更新し必要な災害や情報を登録することにより、応援に駆けつける部隊に対する十分な情報共有が図られていた。
		緊急消防援助隊の受入に向けて、道路の寸断を踏まえたうえで出動ルートや進出拠点、宿営場所等の検討が適切にされていた。
悪かった点	自己評価	WEB会議システムの活用が上手くできなかった。
		大規模災害が発生した場合においては、軽微な事案は対応しないなど、災害事案のトリアージをすることが必要であると感じた。また、どの時点で災害事案のトリアージを行うかなど検討が必要だと感じた。
	客観評価	消防応援活動調整本部からWEB会議システムを使用して情報の発信が行われていたが、聞き逃しているのが認められた。
		今回の想定のような大規模災害が発生した場合においては、災害事案のトリアージをどの時点で行うかなど検討が必要だと感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	指揮班チェックリストがあることを職員全体に周知させる。
	達成状況	図上訓練終了後、チェックシートの見直しを実施し、新たにWEB会議システムの項目を追加する。また、職員への周知及び説明を実施した。（当本部が使用しているクライアントで、掲載）
	目 標	WEB会議システムのPCの位置、スピーカー及び人員配置の見直しを図る。 また、事案トリアージ職員の選定等を見直しを図る。
	達成状況	WEB会議システムのPCの位置を全体が把握できる位置に変更し、担当職員の増員をする。 また、モニターの増設も行い全体で確認できるようにしました。 今回の、実動訓練では改善された。

●訓練者：名古屋消防局（指揮支援本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	受援消防本部の部隊規模、被害・対応状況、道路状況、燃料給油場所などが用紙にまとめられており、迅速かつ円滑な情報共有が行われた。また、指揮支援本部で緊急消防援助隊の取り扱う災害を事案完結まで状況把握できるように、事案管理を行うための様式を作成し、事案管理を行うことができた。
		市災害対策本部の活動調整会議が開催（仮想）され、関係機関と調整が行われた。また、被災現場付近に現地合同調整所の設置も適切に調整が行われた。
	客観評価	指揮本部において、劣勢サイトの把握はされていたものの、必要消防力（規模や種別）までは検討されていなかったが、指揮支援隊到着後、早期に情報収集し、これまで検討されていなかった消防力の分析により、必要部隊数が明らかとなり、関係機関や緊急消防援助隊の投入力検討に活かされていた。
		基本的には、指揮本部と密なコミュニケーションを図り、情報共有ができていた。また、市の会議への出席調整など、細かな部分まで話し合いながら決定をしており、一部指揮本部と重複した検討（進出拠点や支援隊配置）が見られたものの、基本的には任務分担しながら、指揮活動を展開できていた。
悪かった点	自己評価	指揮本部、指揮支援本部において、互いに何を行っているのか共有できていなかった。互いに行動を共有することで、効率的な調整等ができた。
		WEB会議システムを有効に活用し、消防応援活動調整本部と効果的な情報共有を図ることができなかった。また、WEB会議システムの音量が小さく近くに集まらなければ内容把握ができなかった。
	客観評価	必要に応じて、統括指揮支援隊と情報共有及び調整を図っていたが、本災害の全体像の把握、全体像に対する御殿場エリアの消防力（緊急消防援助隊や関係機関の割振など）という観点での情報収集が少ないように感じた。
		県調整本部から適宜WEB会議システムで重要な情報が発信されていたが、聞き流しが発生していた。災害対策本部と指揮本部との連絡ツールなどを到着当初に確認し、共同で対応を検討するなどの必要があった。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	適切に災害対応が完結できるように、本市の指揮支援実施計画の様式等を見直しを図る。
	達成状況	本市の指揮支援実施計画内において、今年度の緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練の実施結果も踏まえ、事案管理を適切に行える状況にしたいと検討中です。
	目 標	本市の指揮支援実施計画に指揮支援隊の活動がまとめられているため、情報伝達・報告を含め、より具体的な記載内容（例：情報伝達・報告の連絡体制の一元化）を検討し、見直しを図る。
	達成状況	本市の指揮支援実施計画内において、今年度の緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練の実施結果も踏まえ、情報伝達・報告等を適切に行える状況にしたいと検討中です。

訓練会場：【富士市消防本部】

●訓練者：富士市消防本部（指揮本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	昨年度実施した訓練の課題を踏まえて、指揮本部の情報フロー見直したことにより、各班の情報処理速度が向上した。
		モニターのサイズ不足や、パソコンの台数不足があったが、モニター及びホワイトボードを活用し情報の見える化を行うことができた。
	客観評価	要請要綱別記様式1-2の記載において、必要な隊、資機材の欄に、発災の状況を把握した上で具体的な要請内容が記されていた。
		指揮支援隊に対して、収集した情報を地図等を用いて効率的かつ効果的に共有できた。
悪かった点	自己評価	各班、各担当が収集した情報の共有が一部できていなかった。
		電話、FAX、無線に次ぐ第3の連絡ツールであるWEB会議システムを積極的に活用することができなかった。
	客観評価	緊急消防援助隊の応援要請について、一部共有できていない所があった。
		応援要請に関する情報について明示するホワイトボード等を用意すると良いと思う。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	情報フロー図及び本部設置要領を作成する。
	達成状況	訓練の検証を反映し、情報フロー図、警防本部及び指揮本部設置要領を作成した。
	目 標	各班及び各担当が収集した情報を共有する項目を情報フロー図に追加する。
	達成状況	警防本部設置情報フロー図に、他機関との連絡調整記録用ホワイトボードを追加した。

●訓練者：川崎市消防局（指揮支援本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	指揮支援隊到着後の富士市消防本部指揮班長からの情報共有が、富士市全体マップや災害一覧等を有効に活用することで、非常にわかりやすく、災害発生状況の全体像を捉えることができ、府県大隊への任務付与や作戦が立てやすかった。
		DJSに宿营地・給油場所・被害情報が反映されていたため、各府県大隊への情報伝達が容易であった。
	客観評価	指揮支援本部設置後、地域の被災状況について掌握し、引き受ける災害現場についてはポイントをおさえて災害対応上必要な情報整理ができていた。
		指揮支援隊長の隊員への指示が具体的であり、指揮支援隊（指揮支援本部）そのものが安定的な対応ができていた。
悪かった点	自己評価	各現場の危険要因の抽出、土砂災害現場での退避基準等の指示が明確ではなかった。
		富士市消防本部では救急班が救急部隊を一括管理していたが、府県大隊の救急部隊の活動について、調整不足であった。
	客観評価	なし
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	指揮支援隊に指定されている隊へ活動内容等、指揮支援隊に求められるものについての教養を行う。
	達成状況	指揮支援隊に指定される局内職員及び川崎署員に対し、指揮支援隊の携行資器材の確認及び動態情報システムの取扱いを実施するとともに、指揮支援隊の役割について教養を行った。
	目 標	自所属のマニュアルの再確認及び共有が必要な情報の整理
	達成状況	当局の風水害等活動指針、安全管理要綱、安全管理マニュアル等を再確認するとともに、総務省消防庁のホームページから土砂災害時における消防機関の救助活動要領等を確認し、いつでも持出しができるようにフォルダに格納した。

訓練会場：【富士宮市消防本部】

●訓練者：富士宮市消防本部（指揮本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	随時変化する情報を30分ごとに全体で拡声器を用いて共有し、各班の連携を図ることができた。
		DJSやWEB会議システムを活用し、スムーズに必要な情報の発信を行うことができた。
	客観評価	指揮者の下、非常に統制がとれており、情報収集及び伝達が確実に行われていた。また、30分ごとに情報共有が行われており、最新の情報を随時共有できていた。
		DJSを指揮本部の見やすい位置に配置し、情報の共有ができていた。
悪かった点	自己評価	消防力の優劣及び要請の判断について、状況の判断が不明確であった。
		指揮支援隊が必要とする情報を集約することができておらず、指揮本部が受け身となってしまった。
	客観評価	災害対応に直接関係する消防団、警察、自衛隊などの情報についての情報を見える化がされていなかった。
		指揮支援隊の情報共有に対して、指揮本部と指揮支援本部に温度差があったように感じられた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	情報集約シートを新規作成し、定期的に集約・作成・確認するよう総括指揮班の任務に追加する。
	達成状況	各班の情報集約シートを作成した。総括指揮の情報集約に使用する。
	目 標	本訓練で必要となった共有事項を基に情報共有シートを新規作成する。また、情報共有シートには、富士宮市及び富士宮市消防本部の基本情報を含んだ資料を添付する。
	達成状況	本訓練で調整、共有した事項を元にチェックリスト及び資料を作成した。今後訓練で使用し、更に検証を重ねる。
	目 標	派遣職員の派遣方法、携行資器材等のチェックリストを新規作成する。
	達成状況	消防L0チェックリストを作成した。今後訓練で使用し、検証していく。

●訓練者：浜松市消防局（指揮支援本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	指揮支援本部設置後、災害等に関する情報収集を行うにあたり、現時点で分かっている内容については円滑な情報共有ができた。なお、聴取内容について、不明点等についても迅速な対応が図られており、円滑な活動であった。
		指揮本部中心部に被災地の地域図が展開されており、災害現場の位置情報等がプロットされ指揮本部内の情報について、本部長、本部長補佐と指揮支援本部長及び指揮支援副隊長における情報共有が明確にできた。
	客観評価	指揮支援隊は迅速かつ確かな情報収集を実施し、被災地消防本部と早期に連携を図っていた。
		隊長、副隊長の指示事項が明瞭であり、隊員は指揮本部内の情報をきめ細かく収集していたと感じました。
悪かった点	自己評価	訓練を進行するうえで、指揮本部のレイアウトを把握することができず、どんな情報についても指揮本部長若しくは本部長補佐に聴取する形となってしまった。
		情報の収集及び共有を図ることはできたものの、指揮支援隊としての活動スペースがあまりなく、資料作成に係る机や情報共有ができる指揮支援隊用の掲示場所等により「見える化」を図ることができれば、情報共有における抜けが回避されるとともに、効率的な情報共有ができると感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	客観評価	到着後の引継ぎに関し、欲しい情報と引き継ぐ情報に温度差があったように感じました。 (被災地消防本部は、情報が錯綜、混濁し消防力が極めて劣勢な状況下での活動が予想されます。このような状況下での引継ぎ及び災害状況の掌握は非常にハードルの高い作業であるとお察いたします。「指揮支援隊が知りたい情報項目リスト」などを提示することで、引継ぎの迅速性を高める効果があるのではないかと感じました。)
	目 標	被災地、被災消防本部の地理及び消防力等を事前に把握するため、必要な情報を早期集約できるよう（仮称）情報収集チェックシート等を作成し、早期に遺漏なく情報を集約し出動することができる体制の構築
	達成状況	達成済み
	目 標	情報共有シートの作成を行う。
	達成状況	情報共有シートを作成した。

訓練会場：【富士山静岡空港】

●訓練者：静岡県消防防災航空隊（航空指揮本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	航空指揮支援隊への被災状況、活動状況、今後の方針について検討し、円滑に決定することができた。
		チャットを活用し、県災害対策本部にいる航空隊員と情報共有し円滑な活動につなげることができた。
	客観評価	機体整備（洗浄）可能状況について、水難事案を考慮した機体洗浄や資機材洗浄、隊員等の応援部隊への配慮ができていた。
		緊急消防援助隊の航空小隊を受入れる際に応援部隊の活動可能時間や宿泊の有無など、今後も含めた聴取ができていた。
悪かった点	自己評価	ヘリベースの機器の設置についてはスムーズに実施できたが、手順の違いや通信機器のテスト送信が遅れてしまった。
		航空小隊の活動状況について、「静岡県緊急消防援助隊航空部隊及び航空指揮支援隊受援計画」様式5にて示しているが、情報取得方法の説明が足りなかった。
	客観評価	どこで、だれが、何をしているかなど、情報の可視化がされておらず、状況が不明確であった。
		航空消防防災活動について、各関係航空機関との活動エリアの振り分けや高度制限、飛行ルートが曖昧であり、安全運航上、問題があると感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	耐空検査や時間点検等の運航休止時、総合訓練等を活用し訓練を実施する。実施した訓練の都度、運用方法の考察や資器材の整備を図り、大規模災害時においても不測がないように二の手、三の手の手段の拡充に務める。
	達成状況	達成済み。継続して実施中
	目 標	応援航空小隊受け入れ時にヘリベースの運用等について説明する。静岡県ヘリベースの運用方法を可視化し、応援航空小隊が活動しやすい環境を作る。
	達成状況	達成済み。継続して実施中

●訓練者：群馬県防災航空隊（航空指揮支援本部）

項目		意 見
良かった点	自己評価	航空指揮本部と自隊（航空指揮支援隊）で被害・対応状況の情報共有を行うことができた。
		受付時に応援部隊の活動可能時間や宿泊など、今後の活動に対して確認することができた。
	客観評価	30分チェックについて、情報共有を図ることを目的として、活動状況や飛行に関する重要な事項を周知徹底できていた。（日没時間）
		役割分担が明確にできていたため、入電から活動指示・活動報告まで円滑に実施できていた。
悪かった点	自己評価	航空指揮支援隊の出動要請依頼を電子もしくは電話で実施した方が良かったのではないかと感じた。
	客観評価	航空消防防災活動について、各関係航空機関との活動エリアの振り分けや高度制限、飛行ルートが曖昧と感じた。同一空域に多数の航空機が進入していると感じた。
上記を踏まえた目標及び達成状況	目 標	情報共有について、新たな災害情報を共有するため、訓練・研修等で周知させる。
	達成状況	訓練や実災害・研修の中で、新たな情報を全体に共有することができた。
	目 標	自隊でも航空指揮本部として円滑な活動ができるように訓練を実施する。
	達成状況	2月末までに達成予定

